

## 三原市民と市長の「みらいトーク」(第 35 回) 実施結果

目 的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

- 1 日 時 令和 6 年 4 月 23 日 (火) 14 時 30 分から 16 時 00 分
- 2 場 所 Casa de Mano カサデマーノ (三原市八幡町)
- 3 テーマ これまでの取り組みや今後取り組んでいきたいこと
- 4 参加者 地域おこし協力隊 (8 名)、岡田市長
- 5 内 容 市が依頼している地域おこし協力隊の各隊員から活動報告を受けた後、各項目について市長が質問し、参加者から対話形式で意見を聴取。

### (1) 協力隊活動の報告

#### 【四方隊員】

昨年度本町にオープンしたたこ焼き屋は複数のメディアにとりあげていただき、広く認知してもらうことができた。新たな挑戦としては、シャジム隊員と協力隊 O B の中村さんと 3 人で、大和町の棲真寺に五右衛門風呂を使った銭湯を作りたい。夏頃のオープンをめざしている。

#### 【麻倉隊員】

活動拠点の宇根山家族旅行村で 5 月 18 日、19 日にイベントを開催する。泊まりのサイトは完売になったが、18 日は入場無料で、キッチンカーや厳選食材の直売、アウトドアショップによる人気グッズの販売コーナーがある。キャンプに合う食材もテーマに考えているので、訪れた人が SNS にアップするなど波及効果も期待している。

T S S の西村キャンプ場という番組の新企画として「理想のキャンプサイトを作ろう」というコーナーを立ち上げて、宇根山家族旅行村の一角を借りて撮影を行っている。4 月 13 日に 1 回目の放送があった。

#### 【シャジム隊員】

ビストロがもうすぐプレオープンを迎える。最初はテイクアウトのみでカヌレと飲み物を販売する。6 月にグランドオープンし、ピザやキッシュなどテイクアウトの種類を増やす。協力隊を卒業したらレストランを営業する。大和にはきれいな水と野菜があるので、できるだけ大和町や三原の食材を使用したい。

#### 【馬屋原隊員】

4 月 7 日に高坂のどかで「郷の市」というマルシェのようなイベントを行った。前回の来場者は 100 人程度だったが、今回は 300 人来場されたので、ほとんどの商品が売り切れた。来場者にアンケートを実施した結果、8 割以上の方が高坂以外の方で、半数近くが、のどかを知らなかったのが高坂以外の人に地域の魅力を知ってもらえて良かった。体験を求める声が多かったのが次回は体験を増やしていきたい。

**【三原隊員】**

西国街道のまちづくり協議会に参加している。三原の戦前から続く景色を残したいという思いで、何ができるかを模索している。三原を相対的に見るため、周辺市町の視察や、日本国内のまちづくりの事例の勉強などを行っている。まちづくり協議会のアドバイザーも拝命したので建築士の資格を生かして頑張りたい。観光まちづくりに興味があり、町全体がホテルになっているNIPPONIAの三原版を作りたい。

**【丹澤隊員】**

北方エリアが活動拠点。空き家を活用して地域の活性化をしたい。空き家だけでなく、耕作放棄地や高齢化などの問題を解決し、皆が納得できる北方を作りたい。今は空き家をまわって所有者とコミュニケーションをとりながら解決策を探している。

北方は芝桜が見ごろだが、駐車場や座る場所がないので、お茶ができるような場所を作りたい。

**【柴田隊員】**

レモンを栽培したいという思いで着任したが、現在はデコポンを主に栽培している。レモンの農地を増やして、今は2反の農地に64本のレモンの苗を植えた。市場にあまり出回っていないような珍しい品種のレモンを植えている。収穫できるようになれば、飲食店に卸して活性化につなげたり、食の豊かさに貢献したい。

**【坂江隊員】**

空き家対策の活動をしている。市役所等と連携してBtoBのような仕事をしている。

**(2) 活動の課題感や相談したいこと**

**【参加者から】**

まちづくりの活動で地域の関係者や市役所と連携するときに市長の後押しが欲しい。

**【市長から】**

関係機関と連携して取り組みを進めていただく場合に、課題を共有していただくところからスタートしていただければありがたい。

**【参加者から】**

観光に力を入れたいと考えている。空港があるのでインバウンドを狙うのか、国内を狙うのか市の観光の方向性を教えてほしい。

**【市長から】**

観光がビジネスとして成立するのが望ましいと考えており、国内・国外などターゲットをしぼることはあまり考えていない。観光スポットを訪れ、経済活動をしてもらうことにつなげたいと思っており、この点は事業者の皆さんからのアイデアもいただきたい。

**【参加者から】**

協力隊で連携して観光をビジネスとして成立するような形を作りたい。

**【参加者から】**

どのようなまちづくりを進めていきたいと考えているか。協力隊がどのように盛り上げたら良いか。

**【市長から】**

市民の皆さんが住みやすい、住んでよかったと思うまちづくりをめざしているが、住みやすさに加えて、風通しがよくてチャレンジしやすいようなまちにしたいという思いがある。協力隊のみなさんには、一歩先の未来を見据えたチャレンジの実践事例になって欲しい。皆さんの得意なことや経験などを生かす形で事例を作ってもらいたい。

**【参加者から】**

地域の観光場所にトイレがない、駐車場がないなどの自分では解決できない問題への対応について。

**【市長から】**

行政との距離が近いという協力隊のメリットを活かしながら、解決に向けて一緒に取り組んでいきたい。

**【参加者から】**

協力隊活動のイベントでは地元以外の人を訪れることが圧倒的に多い。関係人口を増やすという点ではいいが、地元の人が喜ぶ仕組みを作れているか不安に思っている。協力隊活動の目標は移住者の増加なのか、三原を知ってくれる人を増やせばいいのか迷いがある。

**【市長から】**

移住に至るまでには、いくつかの要件があると思う。協力隊の活動では、何かきらりと光るものが展開されて欲しいが、必ずしもそれが人口獲得策に結びつかなかったとしてもやむを得ない。三原市民あるいは三原を訪れた人が、三原は面白い取り組みがあると思うような事例がどんどん出てきてほしい。

**【参加者から】**

他の自治体の協力隊と繋がりができ、同じような問題意識を持っている方が多いと感じた。自治体の繋がりの政策について聞きたい。

**【市長から】**

広域自治体での連携としては、福山市を中心とした備後圏域や、広島市を中心とした広島広域都市圏などがあり、それぞれ施策別に見ていけば様々な広域的な事業がある。広島広域都市圏では西国街道をテーマのひとつに取り上げているので、具体的な提案があれば歓迎されると思う。

**【参加者から】**

協力隊活動が三原市内に限定されているので広域的な活動ができたらありがたい。

**【市長から】**

連携することでお互いの自治体にメリットがあるような取組を応援したい。

(3) 市長から

協力隊のみなさんの思いをひとつづつ形にしていけるようにサポートしていきたい。